１天声人語

Ａ　花粉症に苦しむ身としては、２月に入ると、①もうそろそろかと気になってくる。飛散が始まる時期の見当をつけるため、１月初めからの毎日の最高気温を足し合わせるという方法があるらしい。合計が４００度を超えると危険信号だという。

Ｂ　試みに昨日までの東京中心部の気温を足すと、３９７度だった。なるほど［　Ⅰ　］が少しむずむずするわけだ。②例年よりやや早い気がする今年は、新型コロナウイルスの影響でマスクが品薄なのが気になるところだ。

Ｃ　自然現象や天気を予測するための知恵は昔から色々あって「夕焼けの次の日は（　ａ　）」「ツバメが低く飛ぶと（　ｂ　）」などはよく知られる。だんだん［　Ⅱ　］にしなくなったのは、天気予報の精度が上がってきたためか。

Ｄ　今月初めから、全国の多くの地方気象台で目視による天気の観測をやめ、機械観測に切り替えたそうだ。気象衛星やレーダーによる高い技術のおかげで、③目で見るよりも正確に把握できるというのが理由である。

Ｅ　これに伴い「快晴」「薄曇り」などの記録もしなくなり、単に晴れや曇りとして扱われるという。人の［　Ⅲ　］に基づく微妙な表現はどうやら用済みらしい。やや寂しい気がするのは、空模様を表す豊かな日本語がいくつも思い浮かぶからだ。

Ｆ　雲ひとつとっても④「あかね雲」 ⑤「入道雲」 ⑥「いわし雲」 などがあり、この季節でいえば今にも雪の降りそうなのが「」である。雲の様子をながめることも、⑦くしゃみを一つすることも、季節の移ろいのなかにいる確かな証拠である。

（朝日新聞「天声人語」二〇二〇年二月五日）

問１　――線部①について、「そろそろ」どうだというのか。文中から抜き出して答えよ。

・そろそろ〔　　　　　　　　 　　　〕か

問２　［　］Ⅰ～Ⅲに入る体の部位をそれぞれ次から選び、記号で答えよ。

ア　耳　　イ　手　　ウ　目　　エ　鼻

Ⅰ＝（　　　）　　Ⅱ＝（　　　）　　Ⅲ＝（　　　）

問３　――線部②の理由を文中のことばを使って答えよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　（　）ａ･ｂに入る天候を次から選び、記号で答えよ。

ア　晴れ　　イ　曇り　　ウ　雨

ａ＝（　　　）　　ｂ＝（　　　）

問５　――線部③と同じ意味のことばを文中から二字で抜き出して答えよ。

〔　　　 　〕

問６　――線部④～⑥の説明をそれぞれ次から選び、記号で答えよ。

ア　夏の積乱雲

イ　秋の斑点状や列状の雲

ウ　朝日や夕日に映える雲

④＝（　　　）　　⑤＝（　　　）　　⑥＝（　　　）

問７　――線部⑦は何による「くしゃみ」か。文中から抜き出して答えよ。

〔　　　　　　　　　　〕

問８　右の文章を三つに段落分けするとすれば、二、三段目はそれぞれどこから始まるか。小段落記号で答えよ。

二段目＝（　　　）　　三段目＝（　　　）

【解答】

問１　〔そろそろ〕飛散が始まる（時期）〔か〕

問２　Ⅰ＝エ　Ⅱ＝ア　Ⅲ＝ウ

問３（例）１月初めからの毎日の最高気温が例年より高いため。

問４　ａ＝ア　ｂ＝ウ

問５　目視

問６　④ウ　⑤ア　⑥イ

問７　花粉症

問８　二段目＝Ｃ　三段目＝Ｄ

ポイント

問２　Ⅱ　耳にしない＝聞かない。

　　　Ⅲ　目に基づく表現＝目で見るよりも正確な機械観測に替わった。

問８　「花粉症」の序→古くからの天気予測の目視の知恵→より正確な機械観測への変更で失われかねないものへの愛惜、の三段構成。